

英語新設科目の妥当性の検証と履修状況の調査

出縄 貴良, 林 響子
了徳寺大学・教養部

要旨

了徳寺大学では2022年度から適用される新カリキュラムの検討の結果、英語科目に英会話とベーシック・イングリッシュを新設することを2020年度に決定した。この新科目の設置の妥当性を2021年度の入学生を対象に調査を行い検証したところ、どちらの科目も妥当であることが示唆された。しかし実際にこのカリキュラムで履修する2022年度の入学生に調査を行ったところ、ベーシック・イングリッシュは150人の学生が実際に履修したが、英会話は9人しか履修しなかった。調査では英語のスピーキング力を伸ばしたいと回答した学生が最も多かったにもかかわらず、英語を話す力に自信がないことを理由として履修を避けた学生が多かった。そのため、学生の力に合わせて授業を進めることを周知し、学生の不安を取り除くことが必要である。また、ベーシック・イングリッシュは多くの学生が履修したが、1クラスの人数が多すぎてきめ細かな指導が難しくなっているため、次年度以降はクラス数を増やすことを検討している。

キーワード：英語教育，必修科目，選択科目

Verification of survey results: New English subjects and enrollment

Takayoshi Denawa, Kyoko Hayashi
Department of Liberal Arts, Ryotokuji University

Abstract

In 2020, Ryotokuji University decided to add English Conversation and Basic English courses to the English language learning curriculum starting in 2022. The introduction of these two subjects was deemed desirable based on the questionnaire survey conducted in 2021. However, the survey conducted in 2022 revealed that only 9 students chose English Conversation while 150 students selected Basic English courses. Although the maximum number of students in the survey answered that they aspired to improve their speaking skills, they appeared to have chosen another subject because they are not confident about their English speaking ability. Therefore, we need to inform them that the instructors would conduct the class according to students' English proficiency and relieve their anxiety. As for Basic English courses, more classes are needed because significantly more students selected this course than we had expected, and the instructors could not suitably guide them in their studies.

Keywords: English-language teaching, required subject, elective subject

I. はじめに

本研究は林・出縄¹⁾の継続調査である。了徳寺大学（以下、本学）では、2022年度から新カリキュラムによる授業運営が始まっている。この新カリキュラムでは新しく英語科目を2科目設置することとなった。英語科教員を中心とした教職員による話し合いの末、スピーキングを重視した「英会話」と基礎的な復習を行う「ベーシック・イングリッシュ」が新設されることとなった。

これら2科目の新設科目の決定には、時間的な制限から学生の意見を反映することができなかった。学生のニーズに合わせた授業の重要性については、これまで非常に多くの研究によって指摘されてきた。Long²⁾は、目標領域に精通していない学習者の場合は、教師がそのニーズを決定する必要があるとしている。しかし、一方で藤本・松尾³⁾は「学生にとって、希望科目を受講する場合と希望しない科目を割り当てられる場合では、学習意欲の点で大きな差が考えられる」とし、また「選択科目による学生の効用の不充足は、学生たちの修学意欲やモチベーションを大きく損なわせるという極めて重大な教育学的な危険性をも持ち合わせていることも指摘できる」と述べている。

そこで林・出縄¹⁾では、新設科目の妥当性を検証するために2021年度の1年生に対してアンケート調査を行い、新設された2科目は学生のニーズに合った適切な設置であったと結論付けた。しかしアンケートの対象となった学生は、新カリキュラムでの授業を受講する学生ではなかった。

本研究では実際に新カリキュラムでの授業を受講している2022年度の1年生を対象としたアンケート調査を行い、新設科目は学生のニーズに合った適切な設置であったという林・出縄¹⁾の結果を検証する。また新設された2科目の履修状況を調べ、問題点などを検討し、より良い授業となるよう改善策を提示することも本研究の目的である。

II. カリキュラム

1. 必修科目と選択科目

本学では2022年度に入学した学生から新しいカリキュラムが適用されている。英語科目が配置されている教養教育科目の「情報の活用」の区分には8科目が置かれ、理学療法学科（以下、理学）と整復医療・トレーナー学科（以下、整復）の学生は必修科目3単位と選択科目2単位以上、看護学科（以下、看護）の学生は必修科目5単位と選択科目を1単位以上履修しなければならない（表1、表2）。

表1 「情報の活用」における科目と単位数（理学・整復）

科目名	必修	選択
統計学		2
情報処理演習Ⅰ（ICTを含む）	1	
情報処理演習Ⅱ		1
総合英語Ⅰ	1	
総合英語Ⅱ	1	
実践医療英語		1
英会話		1
ベーシック・イングリッシュ		1

表2 「情報の活用」における科目と単位数（看護）

科目名	必修	選択
統計学	2	
情報処理演習Ⅰ（ICTを含む）	1	
情報処理演習Ⅱ		1
総合英語Ⅰ	1	
総合英語Ⅱ	1	
実践医療英語		1
英会話		1
ベーシック・イングリッシュ		1

表1, 表2が示すように、英語科目は全学科において総合英語Ⅰ、総合英語Ⅱが必修、実践医療英語、英会話、ベーシック・イングリッシュが選択となっている。理学、整復の学生は、選択科目から2単位以上履修しなければならないため、英語をしっかり学びたい場合は実践医療英語、英会話、ベーシック・イングリッシュの3科目の中から2科目を選ぶことができる。また、情報処理演習Ⅱを選択し、英語科目を1つ選択することもできる。しかし、統計学を選択すると、英語科目を選択で履修する必要はない。一方、看護の学生は選択科目から最低1単位を履修すればよいいため、情報処理演習Ⅱを選択すれば英語は必修科目のみの履修となる。

2. 英語科目

本学が設置している英語科目について以下に説明する。

1) 総合英語Ⅰ・総合英語Ⅱ

総合英語Ⅰは前期、総合英語Ⅱは後期に開講され、主に医療英語を扱う。全員が履修するため入学時にプレースメントテストを行い、学生は成績順に15人～30人のクラスに分かれて受講する。

2) ベーシック・イングリッシュ

英語が苦手な学生を対象に、文法を中心とした基礎の復習を行う。半期開講の選択科目で、1年次、2年次に履修できる。

3) 英会話

会話を中心に扱う授業で、主に外国人教員が担当する。半期開講の選択科目で、1年次、2年次に履修できる。なお、この科目は受講者が多いと効率的な授業ができないため、上限30人の定員を設け、抽選科目とした。

4) 実践医療英語

総合英語Ⅰ・総合英語Ⅱで学んだ内容を発展させ、医療英語をさらに深く学ぶ。半期開講の選択科目で、2年次のみ履修できる。

旧カリキュラムにおいては、英語科目は総合英語Ⅰ、総合英語Ⅱ、実践医療英語Ⅰ、実践医療英語Ⅱしか設置されていなかった。このカリキュラムでは基本的に医療英語を学ぶだけとなり、英会話や

リーディング、ライティングなどの英語の技能に特化した科目がなかった。また、中学校で学ぶ内容が理解できていない学生も多く、総合英語や実践医療英語の中で中学校・高校で学んでいるはずの文法や表現などがある程度時間をかけて説明する必要がある、医療英語のみに集中して授業を進めることができなかった。そのため、英語のカリキュラムを見直し、学生にとってより良い授業編成を検討することになり、現在のカリキュラムが設計された。

Ⅲ. 調査方法

2021年度の調査結果の妥当性を検証し、英会話とベーシック・イングリッシュという新設科目の履修状況についての調査を行うためにGoogleフォームを介してアンケートを行ったⁱ。質問内容は大きく分けて以下の3つである。①英語の授業内で特に学びたい技能、②ベーシック・イングリッシュを履修した理由、または履修しなかった理由、③英会話を履修した理由、または履修しなかった理由である。対象は本学の2022年度入学者である。本調査は各担当教員の協力を得て総合英語Ⅰの授業内において実施し、学生には各自の携帯電話から回答してもらった。アンケートの冒頭に無記名、参加の自由、個人情報保護、およびアンケートの回答によって回答者が不利益を被ることはないことなど、倫理的配慮を十分に行うことを明記した文書を添付し、それを読んでもらい納得できた場合にアンケートの回答へと進んでもらった。その結果、履修者280人のうち237人から回答があった（回答率84.6%）。なお、本アンケートの中で総合英語の担当教員を答えてもらっており、各回答がプレイスメントテストでレベル分けされたどのクラスに属する学生からのものであるかは分かるようになっている。

本研究は、了徳寺大学生命倫理審査委員会の承認を受けて実施した（承認番号：22-05）。

Ⅳ. 調査結果と考察

1. 英会話

1) 設置の背景と科目の概要

(1) 設置の背景

先に述べたように、本学では2021年度まで英語科目は総合英語Ⅰ、総合英語Ⅱ、実践医療英語Ⅰ、実践医療英語Ⅱの4科目しか設置されていなかった。ますます国際化が進んでいく中で、学生は将来外国人の患者や医療従事者、アスリート等と接する機会が出てくることは十分に予想できる。そのために医療英語を中心に学んでいるが、外国人患者等とコミュニケーションをとる際には医療の話だけをするのではなく、天気や生活などの雑談も行うはずである。そのような日常の何気ない会話をスムーズに行うためには、やはり声に出して英語を話す練習をする必要がある。総合英語、実践医療英語の授業内では、そのような時間がなかなか取れないため、会話に重点を置いた授業が必要ではないかと判断した。また、英会話の授業は多くの大学で設置されており、小学校・中学校・高校においてのコミュニケーションの授業で学んだことを忘れずに活かしていくためにも英会話の授業の設置の必要性が考えられた。

そして、2021年度の調査では、英会話の授業を履修したいと答えた学生は全体の4分の1程度であり、医療英語に次いで履修の希望者が多かった。また、英語の授業で何を学びたいかとの問いには、スピーキングと答えた学生が最も多かった。このようなアンケート結果からも、英会話の設置は妥当であるという結論に至った。

(2) 英会話の概要

授業では主に日常会話を中心に扱う。担当教員は日ごろから英語を使用して生活しているネイティブスピーカーが望ましいが、本学には現在ネイティブスピーカーがいないため、セミネイティブの教員が担当することになった。また、時間割の都合により、看護の後期のクラスのみ日本人教員が担当することとなった。会話を中心に行うため定員を30人とし、定員を超える履修希望者がいた場合は抽選を行うことにした。学生には、入学時のガイダンスでこの科目が定員制であること、授業は英語で行われることを説明した。

2) 実際の履修状況

2022年度の英会話の履修状況は以下のようになった（表3）。

表3 英会話の履修状況（人）

	木曜1限	木曜4限
	（前期は全学科，後期は理学・整復）	（看護）
前期	4	
後期	4	1

表3が示すように、履修者が非常に少なく、抽選を行う必要もなかった。2021年度の調査において、約4分の1の学生が英会話の授業を履修したいと回答し、英語の技能の中でスピーキング力を伸ばしたいと回答した学生が最も多かったにもかかわらずこのような履修状況になったことは全くの想定外であった。

3) アンケート結果と考察

(1) アンケート結果

2021年度の調査結果から、英会話の履修者数は相当多くなるだろうと予想されたが、実際には9人しかいなかった。そこで2022年度に行ったアンケートの結果を以下に示す。アンケートでは、英会話を履修しなかった学生に対し、なぜ履修しなかったのかを尋ねた。

最も多かった回答は、「難しそうだったから・英語を話すのが苦手だったから」（105人）であった。次に多かった回答は、「時間割の都合が悪かったから」（49人）、その次が「他に履修したい科目があったから」（45人）、そして「授業が英語で行われるから」（43人）と続いた（図1）。

一方で、英語のどの技能を身につけたいかとの質問に対し、「スピーキング」と回答した学生（164人）が最も多かった（図2）。

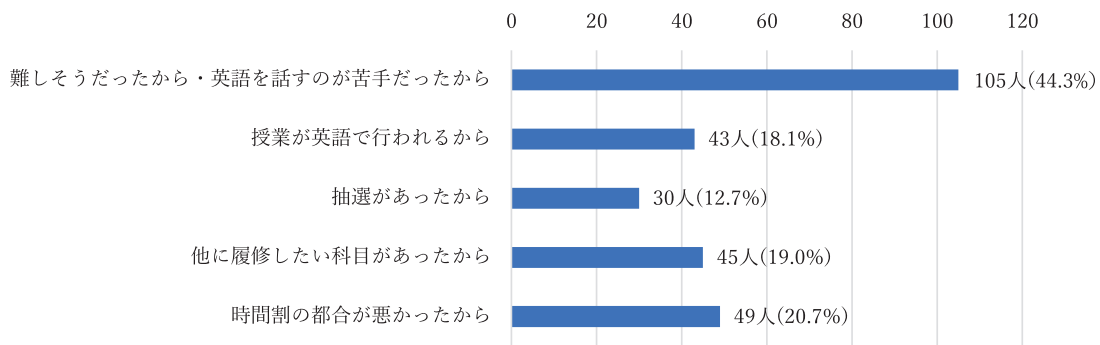


図1. 英会話を履修しなかった理由. 複数回答可

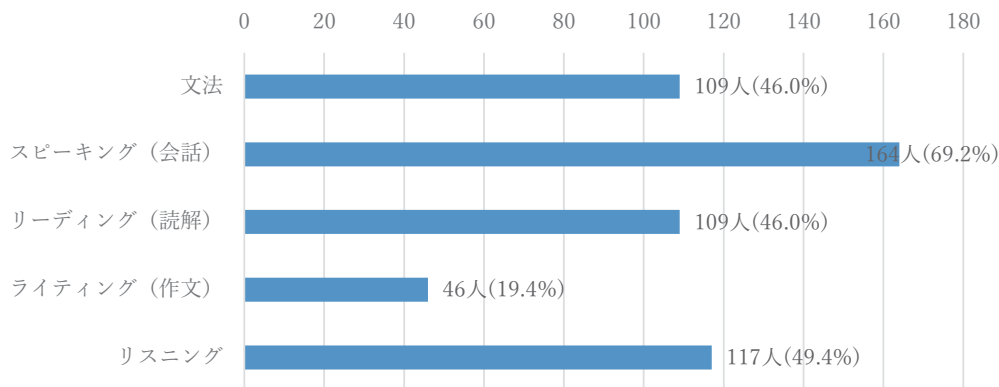


図2. 英語のどの技能を身に付けたいか. 複数回答可

(2) 考察

2021年度の調査で英会話を履修したいと回答した学生が129人であり、2021年度と2022年度の調査でスピーキング力を伸ばしたいと回答した学生が、ほかの技能と比較して最も多かったが、実際に英会話を履修したのは9人であった。このような想定外の結果になってしまった原因は以下のように考えられる。

① 学生が自分には英語で話す力がなく、授業についていけないと判断した

図1が示しているように、多くの学生が英語をうまく話せないと感じており、授業を受ける自信がなく敬遠してしまったと考えられる。また、授業が英語で行われることも、授業についていけないのではないかという不安を持ってしまう原因の一つになったようである。英会話を履修しなかった理由として授業が英語で行われることを挙げた学生は18.1%しかいなかったが（図1）、一方で授業を英語で受けたいかとの問いに対して英語で受けたいと回答した学生はわずか3.4%しかいなかった（図3）。この数字からも学生が自分の英語力に不安を覚えて英会話の履修を避けたことが推測される。

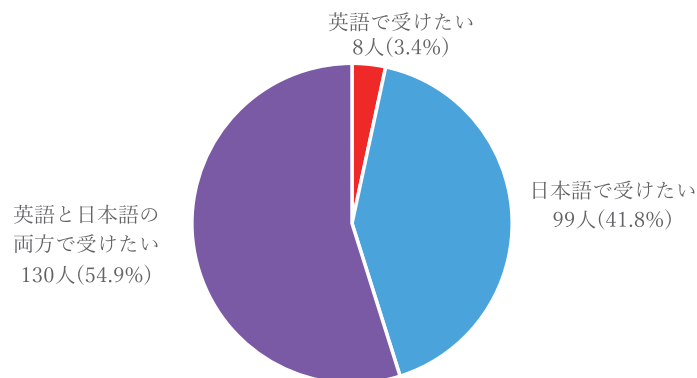


図3. 授業は英語で受けたいか、それとも日本語で受けたいか

②英会話が履修しづらい時間帯に設置された

前期は全学科木曜の1限に、後期は理学、整復で木曜の1限に置かれ、早朝の時間帯を敬遠したことも履修者が少ない理由の一つになったのではないと思われる。実際に、49人の学生が時間割の都合が悪いことを履修しなかった理由として挙げている。

また、整復は英会話がある木曜日の2限に必修の総合英語があり、5限目には選択科目のベーシック・イングリッシュが置かれている。そのため、学生は同じ日に2コマ以上の英語科目を履修するのが大変だと感じた可能性もある。

③英語が苦手だと感じる学生が多く、より簡単な科目を履修したいと思った

本学に入学する学生の多くは、中学校・高校で学ぶ英語を完璧には理解しておらず、英語に対して苦手意識を持っている学生が多い。そのため、英語科目はなるべく簡単なものを履修したいと考える学生が多くなったと考えられる。英語の選択科目は英会話のほかに実践医療英語とベーシック・イングリッシュがあり、ベーシック・イングリッシュは英語の基礎から復習する科目であることを入学時のガイダンスで説明している。したがって、多くの学生が英会話よりもベーシック・イングリッシュのほうが自分の力に合っていると考え、英会話よりもベーシック・イングリッシュを選択したと思われる。実際にベーシック・イングリッシュを選択したのは理学、整復で111人、看護で39人であり、その理由を尋ねると、最も多かった回答が「基礎・文法の復習をしたかったから」（99人）で、次が「英語が苦手だから」（84人）であったⁱⁱ。特に看護では選択科目を1つしか履修する必要がないため、英語が苦手な学生はベーシック・イングリッシュまたは情報処理演習Ⅱを選択して、「他に履修したい科目があったから」と回答した可能性がある。実際に、他に履修したい科目があったと回答した12人のうち、ベーシック・イングリッシュを選択したのは5人、情報処理演習Ⅱを選択したのは6人、実践医療英語を選択したのは1人であった。

英会話の履修者が極端に少なかった理由は、これら3点にまとめられる。今後ますます国際化が進むであろう世の中で、英語を多少なりとも話すことができることは強みになるはずであるし、本学の学生にもこのような力をつけてもらいたいとの思いから英会話を設置したため、やはりある程度の人数の学生に履修してもらいたい。次年度以降、履修者を増やすために何らかの対策が必要となる。

まず、多くの学生が自分の英語力に自信がなく、アンケートでも英語を話すことが苦手だと回答していることから、入学時のガイダンスにおいて、学生の力に合わせて少しずつ英語を話す練習をする授業内容であることを説明し、不安なく学生が授業に参加できるようにすることが最も重要であろう。そのために担当教員とも念入りに話し合い、英語の苦手な学生でも履修しやすい授業内容にしてもらうことも必要となる。さらには、外国人の教員が英語で授業を行うというだけで敬遠する学生がいることが想定されるため、英会話の初心者クラスを設置し、日本人教員が日本語で授業を行うことも考えていかなければならない。

2. ベーシック・イングリッシュ

1) 設置の背景と妥当性の検証

本科目は、英文法を中心に英語の基礎を身につけることを目的として新たに設置された。したがって主な対象者は英語を苦手とする学生やもう一度基礎を学び直したいという学生である。

本学の一般入試では英語が選択であり、必須科目ではない。また、推薦入試で英語を受験せずに入学する学生も少なくない。実際、本アンケート回答者のうちおよそ42.6%が英語を受験せずに入学している。

以前のカリキュラムでは1年次の英語科目は総合英語しかなかったため、この中で医療英語を扱いなが

ら、必要に応じて文法の復習も行わなければならなかった。総合英語はプレースメントテストによるクラス分けがなされており、特に下位クラスではテキストの内容を理解できるようになるために文法などの基本事項の復習に時間を割かなければいけないことが多々あった。神谷⁴⁾は基礎的な英語力が身に付いていないと大学の英語学習があまり効果的に作用しないケースがあることや、そのような学生は日々の英語の授業や課題に苦勞しているということを指摘し、何らかの新たな対応が急務であると述べている。このような現状を踏まえ、学生がもう一度基礎を学び直し英語力の底上げができるように、そして必修科目の総合英語では、より医療英語に集中できるようにとベーシック・イングリッシュが設置された。

今回のアンケートの結果を見てみると、46.0%の学生が身に付けたい技能として文法を挙げている（図2）。高校までに英語の文法については一通り学び終わっていることを考えると、これほどの学生が文法を身に付けたいと答えたことは、英語の基礎が身に付いておらずもう一度学び直す必要性を感じている学生が多くいるということを示唆している。2021年度の調査では46.8%の学生が文法を身に付けたいと答えていた。今回は若干その数値を下回ったが、ほぼ同じ割合の学生が基礎の学び直しの必要性を自覚しているという結果が得られた。このことからベーシック・イングリッシュを新科目として設置したことは妥当な判断であったということが再度示されたと考えられる。

2) 履修状況と分析

看護では51.3%の学生が、理学、整備では68.9%の学生がこの科目を受講している。看護の方が履修人数が少ない一つの理由は、Ⅱで述べたように看護は最低限必要な選択必修科目の単位数が1単位であることが考えられる。

履修者のうち67.3%が「基礎・文法の復習をしたかったから」、57.1%が「英語が苦手だから」ということを履修の理由として挙げており（図4）、このような学生のニーズに応えられる科目ができたことは非常に有益なことであると言える。また、ムヒナ⁵⁾は、学習者の意思を問わず学ばされる必修科目よりも、学習者が何らかの理由をもって自ら選ぶ選択科目の方が動機づけが高いと分析しており、ベーシック・イングリッシュでも文法を学び直したいと考える学生が自ら選択することで、より高い動機づけを得られることが期待される。

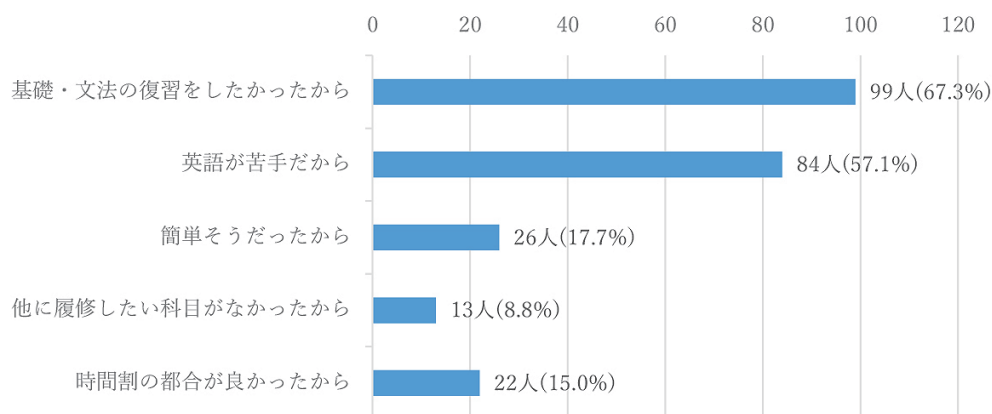


図4. ベーシック・イングリッシュを履修した理由. 複数回答可

次にネガティブな履修理由について考察する。「簡単そうだったから」という理由で履修している学生が26人いる（図4）。本科目は英語が苦手な学生のための基礎の復習となっているため、英語が得意な学

生がそれほど苦勞せず単位を取得できそうだと考えることはある程度予想していた。しかし、個人の回答をつぶさに見てみると全体の結果からは分からなかったことが見えてきた。この質問に対しては複数回答可であり、「簡単そうだったから」以外にも回答している学生が少なくなかった。全26人の回答の全組み合わせと回答数を表4に示す。

表4. ベーシック・イングリッシュの履修理由。
「簡単そうだったから」を含む回答の組み合わせと回答数（人）

A. 簡単そうだったから	6	F. 簡単そうだったから 基礎・文法の復習をしたかったから 英語が苦手だから	5
B. 簡単そうだったから 基礎・文法の復習をしたかったから	3	G. 簡単そうだったから 基礎・文法の復習をしたかったから 英語が苦手だから 他に履修したい科目がなかったから 時間割の都合が良かったから	1
C. 簡単そうだったから 英語が苦手だから	3	H. 簡単そうだったから 基礎・文法の復習をしたかったから 時間割の都合が良かったから	3
D. 簡単そうだったから 他に履修したい科目がなかったから	1	I. 簡単そうだったから 基礎・文法の復習をしたかったから 他に履修したい科目がなかったから 時間割の都合が良かったから	1
E. 簡単そうだったから 時間割の都合が良かったから	2	J. 簡単そうだったから 履修しなかった	1

この結果から、「簡単そうだったから」と回答したからといって、必ずしも単に授業が簡単で楽に単位を取得できそうだと見込んで履修したわけではなさそうであることが推察される。A, D, E以外の組み合わせには、「基礎・文法の復習をしたかったから」か「英語が苦手だから」が入っており、英語が苦手な自分でも授業についていけそうだという理由で「簡単そうだったから」を選んだのではないかと考えられるⁱⁱⁱ。特にFが最も多い回答数となっていることからこのことが読み取れる。

英語が苦手だと感じている学生が自分でもできるかもしれないと思い、もう一度基礎を学び直すために履修するということが、当科目設置の大きな狙いであった。今回のアンケート結果からは概ねその狙いを達成できたと感じられる。もちろん、これだけでは推測の域を出ない部分もあるため、次回のアンケートでは「簡単そうだったから」を例えば「苦手な自分でもついていけそうだったから」と「楽に単位が取得できそうだったから」などの具体的な文言に変えることでより精密な調査結果を得られるように心がけたい。

Aの「簡単そうだったから」のみを履修理由として答えた6人は全て、総合英語の上位クラスに属する学生であったため、楽に単位が取れそうだと判断した可能性が高い。しかし、選択科目という性質上、一定数このような学生が出てくることは仕方ないことのように思われる。むしろアンケート前に予想していたよりも少なかった。このような学生に対しては、英語科目として対策をするというよりも、学習意欲を

高めるような環境づくりに大学全体として取り組んでいくことが大切であると思われる。

次に、ベーシック・イングリッシュを履修しなかった理由について考察し改善策を提案する。回答は図5のとおりである。ここで問題であると考えられるのは「難しそうだから・文法が嫌いだから」と「時間割の都合が悪かったから」である。

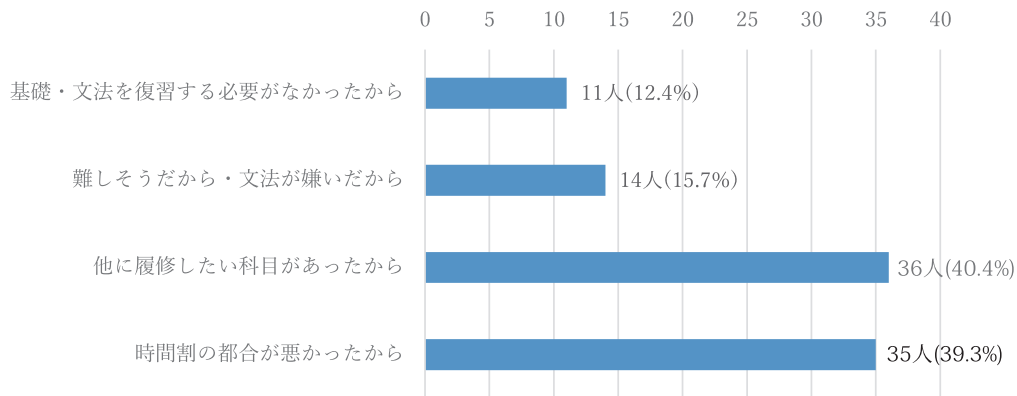


図5. ベーシック・イングリッシュを履修しなかった理由. 複数回答可

2021年度の調査では、各学科の総合英語の最下位のクラスの学生の回答を見てみると、43人中19人（44.2%）しか文法を学びたいと回答しておらず、英語が苦手な学生は文法に対しての苦手意識も強く、文法の授業を避ける傾向にあることが示唆された。そのため、本科目がターゲットとしている英語を苦手とする学生が受講するように、新入生ガイダンスの際に本科目についての説明を行った。その際、英語が苦手な学生にこそ受講してほしいことや、基礎を学び直す最後のチャンスだということを強調した。その結果として今年度は、総合英語の各学科の最下位のクラスに属する38人中25人（65.8%）が受講した。さらに受講しなかった13人のうち、「難しそうだから・文法が嫌いだから」と回答した学生は2人しかおらず、ガイダンスでのアナウンスには一定の効果があったと考える。しかしそれでも「難しそうだから・文法が嫌いだから」と回答した学生14人は皆、半分で分けた場合には下位のグループに属する者であったため、このような学生が受講するようにしていくことが大切である。そのためにも、引き続き新入生ガイダンスでは詳しいアナウンスを行っていく。また、非常勤講師の協力も求め、前期の時点で基礎が身に付いていない学生には後期に本科目を受講することを勧めるといった対策を取っていきたい。

もう一つ問題であると思われるのが「時間割の都合が悪かったから」という回答である。この回答からは、本当は受講したかったが、他の授業と被ってしまい受講できなかった可能性がうかがえる。本アンケートでは、例えば、ベーシック・イングリッシュの中には5限に開講されているものもあり、遅い時間の授業は受けたくないなどの自己都合による理由で「時間割の都合が悪かったから」と答えた学生がいる可能性も否定できない。しかし、いずれにしても学生が学びやすい環境を作ることは大事なことである。今年度初めて本科目を開講してみて、クラスによっては80人を超えてしまい、履修人数の多さが想定を大きく上回ったことが問題点であった。来年度以降は開講数を増やして、1クラス当たりの人数を少なくし、もっと受講者一人一人に対応できるようにする予定である。その結果として、時間割の都合で履修できなかったという学生が減るということが期待される。

V. 結論

2021年度の調査では、カリキュラム改正に伴い2022年度に新設されたベーシック・イングリッシュと英

会話について、これら2科目は学生のニーズに合っており、設置は妥当であったという結論が得られた。しかし、アンケート対象であった学生は当科目を受講できるわけではなかったため、本研究では実際に当科目を受講できる2022年度1年生を対象としたアンケートにより追跡調査を行った。その結果として、2022年度の学生も文法の復習とスピーキングに高い関心を持っていることが分かり、改めてベーシック・イングリッシュと英会話の設置は適切であったということが示された。

しかしながら、学生の関心と実際の履修状況は必ずしも一致しないということが分かった。最も伸ばしたい技能として「スピーキング」と回答した学生が最も多かったにもかかわらず、英会話の履修者は9人しかいなかった。こうなった主な理由として、①自身の英語力に自信がなく英語のみで行われる授業に臆してしまったということと、②時間割の都合が悪かったということが考えられる。対照的にベーシック・イングリッシュでは想定を大きく上回る履修者数となった。この理由は、①基礎をもう一度学び直すことの必要性を自覚している学生が多いということと、②英会話とは逆で、英語が苦手な自分でもついていけそうであると考えたためであるといえる。ベーシック・イングリッシュについては、新入生ガイダンスの際に英語が苦手な人のための授業であることをかなり強調して説明したため、ある程度はその効果があったと思われる。今後も新入生ガイダンスの場をうまく活用していき、英会話についての説明も詳しく行い、スピーキングを伸ばしたいと考える学生が履修できるように促していきたい。また、よりコマ数を増やすことで、履修したかったが時間割の都合で履修できなかったという学生が少なくなるよう学修環境の向上に努めていくことが大切である。本研究で得られた結果は授業内容や学修環境の改善に寄与することが期待される。

注

- i 2021年度の調査とは、林・出縄¹⁾で行ったアンケート調査を指す。以後同じ。
- ii ベーシック・イングリッシュについては次節で詳述する。
- iii ここでの質問はベーシック・イングリッシュを履修した理由を問うものであり、Jの回答は履修しなかった理由を答えているため、考察対象から除外する。

以下のアンケート項目をGoogleフォームで作成した。

英語についてのアンケート

◇所属学科を教えてください。

1. 理学療法学科
2. 整復医療・トレーナー学科
3. 看護学科

◇担当教員を教えてください。

1. 林先生（火1）
2. 林先生（火2）
3. 鄧先生（火1）
4. 鄧先生（火2）
5. 出縄先生（火2）

6. クリスティーン先生 (水1)
7. クリスティーン先生 (水2)
8. 磯野先生 (水1)
9. 磯野先生 (水2)
10. 皆川先生 (水1)
11. 皆川先生 (水2)
12. 林先生 (木2)
13. 出縄先生 (木2)
14. 鄧先生 (木2)
15. クリスティーン先生 (木2)

◇入試の形態と、英語の問題の選択について教えてください。

1. 総合型入試で英・数・国の問題を解いた (9月, 10月の入試)
2. 推薦入試で国語の問題を解いた (英語は解いていない) (11月の入試)
3. 一般入試で受験科目として英語を選択した (1月, 2月, 3月の入試)
4. 一般入試で受験科目として英語を選択しなかった (1月, 2月, 3月の入試)

◇英語のどの技能を身に付けたいですか? 複数回答可。

1. スピーキング (会話)
2. 文法
3. リーディング (読解)
4. ライティング (作文)
5. リスニング

◇どの選択科目を履修しましたか (しますか)? 2科目選択. (理学・整復)

1. ベーシック・イングリッシュ
2. 英会話
3. 実践医療英語
4. 情報処理
5. 統計学
6. 統計学を履修したので2科目目は履修していない

◇どの選択科目を履修しましたか (しますか)? 1科目選択. (看護)

1. ベーシック・イングリッシュ
2. 英会話
3. 実践医療英語
4. 情報処理

◇ベーシック・イングリッシュを履修した理由を教えてください。履修しなかった学生は「履修しなかつ

た」を選択してください。複数回答可。

1. 履修しなかった
2. 基礎・文法の復習をしたかったから
3. 英語が苦手だから
4. 簡単そうだったから
5. 他に履修したい科目がなかったから
6. 時間割の都合が良かったから
7. その他

◇ベーシック・イングリッシュを履修しなかった理由を教えてください。履修した学生は「履修した」を選択してください。複数回答可。

1. 履修した
2. 基礎・文法を復習する必要がなかったから
3. 難しそうだから、文法が嫌いだから
4. 他に履修したい科目があったから
5. 時間割の都合が悪かったから
6. その他

◇英会話を履修した理由を教えてください。履修しなかった学生は「履修しなかった」を選択してください。複数回答可。

1. 履修しなかった
2. 英語を話す力をつけたかったから
3. 外国人の先生と話す機会を持ちたかったから
4. 将来役に立つと思ったから
5. 簡単そうだったから
6. 他に履修したい科目がなかったから
7. 時間割の都合が良かったから
8. その他

◇英会話を履修しなかった理由を教えてください。履修した学生は「履修した」を選択してください。複数回答可。

1. 履修した
2. 難しそうだったから、英語を話すのが苦手だったから
3. 授業が英語で行われるから
4. 抽選があったから
5. 他に履修したい科目があったから
6. 時間割の都合が悪かったから
7. その他

◇英語の授業は英語で受けていたいですか、それとも日本語で受けていたいですか？

1. 英語で受けたい
2. 日本語で受けたい
3. 英語と日本語の両方で受けたい

謝辞

アンケートの実施に協力して下さった本学英語非常勤講師、ならびにアンケートに回答して下さった学生に深く感謝いたします。

引用文献

- 1) 林響子, 出縄貴良 (2022) 英語のカリキュラム改正と学生の英語に対するニーズの検証. 了徳寺大学研究紀要. 16. 163-176.
- 2) Long, M. H. (2005) Methodological issues in learner needs analysis. CUP, Cambridge.
- 3) 藤本貴之, 松尾徳朗 (2004) 選択科目における学生の嗜好に基づいた授業選択/クラス編成支援システム. コンピュータ & エデュケーション. 15. 89-90.
- 4) 神谷雅仁 (2014) 英語学習を促進させる動機付けと環境づくり—学生生活実態調査から見えてきた学生像の分析から—. 上智大学短期大学部紀要. 35. 100.
- 5) ムヒナ・ヴァルヴァラ (2019) 外国語学習者の動機づけの測定方法—英語とロシア語, 「必修科目」と「選択科目」の比較—. *Eruditi: The CGCS Journal of Language Research and Education*. 3. 51.

2022年12月15日 受理
了徳寺大学研究紀要第17号